

特定非営利活動法人海辺つくり研究会

○現在実施している又は今後実施予定の取組

私たちは、1999年に有志が集まり、沿岸域の環境問題について、様々な側面から研究や情報などの交流を行ってきました。2001年には、産官学民を問わず幅広く同志を募り、研究活動とともに、海岸に働きかけながら新しい沿岸域の自然環境を創造するため、「海辺つくり研究会」として設立しました。

当会は、沿岸域環境の保全・再生・創出や自然と共生する海辺つくりに関する事業を、先人の知恵や多くの市民の新しい知恵に学びながら、積極的に推進し、地域の振興や地球環境の保全に貢献することを目的に活動しています。

この目的を達成するため、調査研究・研究開発活動、行政と市民のパートナーシップ構築のためのインタープリターとしての活動、人材育成・普及啓発活動などを行っています。

その一つの活動である「夢ワカメ・ワークショップ」は、2001年から横浜のみなとみらい地区の海辺で、みんなといっしょにワカメを育てて、東京湾の恵みを味わいながら海の環境について考えてもらうことを目的として実施しています。

毎年、200名をこえる参加者が集まるとともに、活動を支えるスタッフは80名にのびります。12月に種糸をつけ、2月収穫するワカメは、多いときには1トンに達します。収穫したワカメは、コロナ禍前まではその場で味噌汁にして食べたりもしていました。現在は、参加者が持ち帰って家族全員で東京湾の恵みを味わってもらっています。



「さかなの日」のコンセプトである「さかな×サステナ」（持続的利用）に向けては、その土台となる海洋・沿岸環境の保全・再生、市民一人一人の意識の高揚と自主的な活動への参画、自治体・企業など多様な関係者の柔軟かつ持続的な連携が重要です。当会は、夢ワカメ・ワークショップの他、東京湾 UMI プロジェクトを核とするアマモ場再生活動、様々な機会を活用した環境教育・海洋教育・体験型環境学習、全国の高校生が集まる海辺の自然再生高校生サミット、江戸前ハゼ復活プロジェクトとして実施しているマハゼ棲み処調査、長期のモニタリング事業である海の公園のアサリ調査等の活動を通じて、新しい沿岸域のあり方を提案・創出してまいります。

当会 HP : <https://umibeken.jp/>